

「家がいいね」 第22号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2006.3.1

「人生の祝福」

大きなことを成しとげるため 力を与えてほしいと
天に求めたのに謙遜を学ぶようにと 弱さを授かった
より偉大なことができるようにと 健康を求めたのに
より良き「心」ができるようにと 病弱を与えられた
幸せになろうとして 富を求めたのに
賢明であるようにと 貧困を授かった

世の人々の賞賛を得ようとして 成功を求めたのに
得意にならないようにと 失敗を授かった

人生を享樂しようとしてあらゆるものを求めたのに
あらゆる「心」を奪うようにと 生命を授かった

求めたものは一つとして与えられなかったが
願いはすべて聞き届けられた

天の意にそわぬ者
であるにもかかわらず
心の中の言い表せないものは
すべて叶えられた

私はあらゆる人の中で
もっとも豊かに祝福されたのだ



山茶花の「金メダル」?

原文は、ニューヨーク大のリハビリテーション研究所の壁に書き込まれた英文です。「神」を「天」に替えて訳しました。人生に結果を求めすぎると、本来に必要なものが見えなくなるのでしよう。「人生に何かを求めるのではなく、人生が何を我々に求めるかだ」と、言った人もいます。人生も、生活も、生命も、英文では同じく「ライフ」と言っているには、単純で深い意味があるようです。

雛がたたずむ

二見の賑やかな雛祭りイベントも3月5日までです。あるお宅の玄関で静かな雛に出会いました。



柳に雪折れ無しの話

自殺が年間4万人を超える社会です。身近で痛ましい話を聞くのもまれではありません。よく「自殺するような人ではなかった」と言われますが、頑張り続ける元気な人ほど、もろい一面があります。写真は兼六園の「雪つり」です。強い枝を持つ木ほど、重



い雪の荷重への備えが必要なのです。

逆に弱そうに見えても、その都度、雪を払い落とす柳の木は自然です。私達も弱い存在である事、うつであることも自然であると、もっと隠さずと言うべきではないでしょうか。でも他人に弱音を吐けない人、自らを叱咤激励するばかりの人こそ、周りからの優しい視線を必要としているのです。

お話し会の「報告」

2月19日に、鈴鹿市白子公民館で、生と死を考える市民の会の勉強会をしました。

絵本の朗読で、高齢のゾウと幼いネズミの交流を通じて、お互いに死をはさんだ生活の大切さを想像してみました。三重県での看取り（在宅の場面と施設ホスピスの場面）を紹介し、その後、参加者70名が、勉強会のテーマの「いのちをつなぐ営み」に関しての感想を述べました。

つらいのは病院から覚悟の上で、自宅へ、ホスピスへ出る時に、送り出す病院のスタッフからの心の支えが得られなかったという実体験でした。緩和ケアの勉強会が病院の中だけで行われてはこのような意見も出なかったでしょう。もっと地域の中での、「腹をわった話し合いが必要ですね」と、会の後のアンケートにも書かれていました。



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805

三重県伊勢市御園町高向 927

電話 0596-20-8104

ファクス 0596-20-8105

mail homecare@kr.tcp-ip.or.jp

HP <http://tcp-ip.or.jp/~takuro>